

<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」(通巻 280 号)

「教育者・新島襄」 -4-

森有礼少弁務使のアンケート

井上勝也同志社大学名誉教授

もう一つシーリー総長の教育観を示す資料をご紹介します。これは森有礼が 1870 (明治 3) 年、少弁務使に任ぜられ、アメリカ駐節を命ぜられますが、彼はアメリカで我国の近代化に必要な教育の在り方について調査報告する特命を与えられていました。そこで彼は 1872 (明治 5) 年、当時の著名な大学の総長、教授、政治家、実業家 15 名に、知的、道徳的、身体的に日本の状態を高めるために、特に次の点に関して見解を求めるアンケートを送っているのです。①国家の物質的繁栄に関して、②その商業に関して、③その農業と工業上の利益に関して、④国民の社会的、道徳的、身体的状態に関して、⑤その法律及び統治に及ぼす影響に関して。このような具体的、現実的な質問項目に対して、シーリー教授は次のような回答を寄せています。

幅の広い十分な教育によってのみ国民はその富源 (resources) が何であるかを、そしてこれらの富源を最高度に利用する方法を十分に学びとることができます。(中略) もっとも良く教育された社会は、他のものが等しければ、もっとも健康で長い生命を持ち続ける社会であります。(中略) しかし私は知性の増大が相応の徳の増大と結合するとは残念ながら申し上げられません。(中略) 人間を知性的にすることによって、道徳的にしようとする試みは絶望的であります。事実道徳性は或る種の宗教的靈感によってのみ発するであります。そしてもし私共の学校や教育上の影響力が宗教的精神によって貫かれないのであれば、それらは、いかにその文化が広大なものであっても、人間を有徳にしないでしょう。(中略) キリスト教国家においては、キリスト教は国家が有する全ての教育への原初的鼓吹者 (original inspirer) であります。そしてこの方法によってのみ、教育は純粹であり、純粹化するのです。もし我々の教育が全体として聖書及びキリスト教の影響から引き離されるとすれば、私の意見では、二つのことが必然的に起こるでしょう。教育自体が弱体化し、ついに消滅するでしょう。教育の道徳的で、向上させる影響力が止むでしょう。(中略) 再び私はいいます。私共は宗教を徳の鼓吹者としてもたねば

なりません。そしてそれ故に私は日本に十分に自由な宗教上の寛容を願いたいのです。
あらゆる宗教に門戸を広く開けて下さい（『森有礼全集』三 pp.336～343）。

森少弁務使は近代文明に対する教育の影響、とりわけ国家の物質的繁栄に対する影響に力点をおいてアンケートしたにもかかわらず、シーリー教授の回答は国民一人一人に幅広い、十分な教育をほどこすこと、そして教育はキリスト教に基づいた道徳性を中核とすべきことを強調しているのです。

このシーリー教授は 19 世紀後半のニューイングランドにおいて、ひときわスケールの大きな教育者でありました。彼は牧師であると共に、15 年間総長の地位にあり、1875 年から 77 年まで共和党選出の連邦議会の下院議員をつとめる政治家でもありました。新島が 3 年間のアーモスト・カレッジ時代、このシーリー教授が彼のアドバイザーでありまして、彼がリューマチで数カ月間闘病生活を送ったとき、彼を寮から自宅に引きとり、看護しています。シーリー教授はアーモスト・カレッジの中で新島を最もよく知っていた教授でありました。新島も内村同様シーリー教授から学問的・人格的に大きな影響を受けたことが、手紙などで十分うかがえるのであります。■